

発行機関：熊本県中央家畜保健衛生所 住所：熊本市南区城南町沈目1666-1
TEL：0964-28-6021
E-mail) chuuoukaho@pref.kumamoto.lg.jp
HP address) <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/78/>

県内で牛ウイルス性下痢の新規摘発がありました

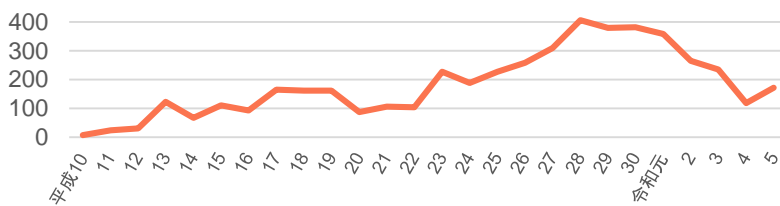
牛ウイルス性下痢について

牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）感染により起きる疾病で、急性感染では発熱や呼吸器症状、下痢などが認められる疾病です。妊娠牛に感染すると異常産（流産や胎子奇形）や繁殖障害、さらに本病特有の持続感染牛（PI牛）が生まれる場合があります。

牛ウイルス性下痢の発生頭数は、平成28年をピークに減少傾向にはありますが、毎年100頭以上発生しています。本県でも例年、数頭から十数頭の発生があり、今年度も2頭のPI牛を摘発しています。そのうち1頭は、新たな農場での摘発でした。

本病の特性上、有効な対策を実施しなければ、農場間や地域で感染が拡大してしまいます。改めて、牛ウイルス性下痢の侵入、発生に気を付けましょう。

牛ウイルス性下痢-全国発生頭数



PI牛とは

BVDVが妊娠牛（胎齢30～150日）に感染すると、その胎子は生後、PI牛として生まれる場合があります。PI牛は、一見健康に見えてもやがて発育不良となり、一部は粘膜病を発症し死亡します。

また、鼻汁や糞尿等に常に多量のウイルスを排出し続けるため、感染源となります。牛群内にPI牛がいると、農場及び地域全体に感染が広がり、生産性が著しく低下します。



図：農林水産省、北海道家畜産物衛生指導協会

BVDV感染対策の3つのポイント

○ウイルスの侵入防止対策

畜舎の清掃や消毒等の飼養衛生管理基準を徹底することが重要であるとともに、外部から牛を導入する場合は、抗原検査（遺伝子検査等）で陰性を確認してから導入しましょう。

○健康観察、早期摘発及びとう汰

BVDVの関与を疑うような症状（流産や異常産、子牛の下痢、発育不良等）が見られたときは早めに管理獣医師を通じ、家畜保健衛生所へ病性鑑定の依頼をお願いします。PI牛には有効な治療法はありませんので、早期摘発・早期淘汰をすることが感染拡大を防ぐ上で重要です。

○予防接種（ワクチン接種）

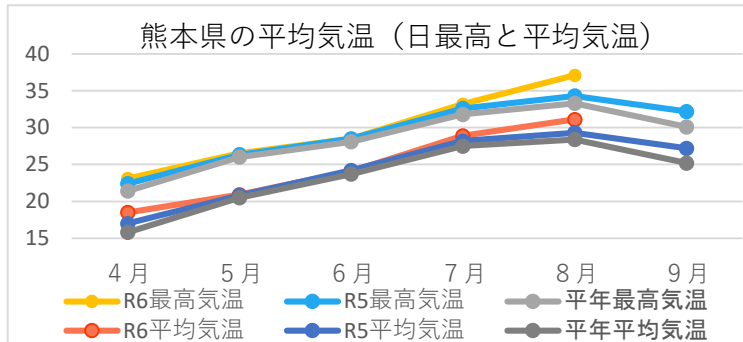
ワクチン接種は大変有効な手段です。子牛には移行抗体の消失時期に合わせ、育成牛・成牛には種付け前までにワクチンを接種しましょう。

肉用牛の暑熱対策は、9月も継続しましょう

和牛繁殖経営では受胎率の下がる暑熱期をどう乗り切ることが重要です。

熊本県における2024年8月の気温は昨年よりも高く、日最高気温平均は昨年より3度近く高い37℃超えを記録しました。平均気温でも、和牛にとって苦しい30℃を超え、厳しい夏となりました。

9月も高い気温になることが予想されるため、しっかりと暑熱対策を継続しましょう。



気象庁発表の気象データより抜粋(8/28時点)

気温15℃～25℃

- 快適
体温維持のエネルギーが最小限。
快適に過ごせる環境



気温26℃～30℃

- 暑い
体温調整できる高温限界

気温30℃以上

- 苦しい
食欲が減退し、繁殖障害が起こる。
快適温度域を超えて気温が上昇すると、体温上昇を防ぐため呼吸・発汗が増えます。

牛にとっても厳しい暑さが続きます。適切な飼養管理を心がけましょう。

令和6年度（2024年度）インターンシップを受け入れています

熊本県では、毎年獣医学生を対象としてインターンシップを受け入れており、今年度も8月から9月にかけて3期6名を受け入れる予定です。

既に3名を受け入れ、家畜保健衛生所では繁殖検診巡回や検査課業務の研修を実施した他、公衆衛生分野では食肉衛生検査所や動物愛護センターでも研修が行われました。獣医学生の職業意識の向上や本県における優秀な獣医師職員の確保につなげるため、関係機関と協力し対応していきます。



近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	台湾	家きん	令和6年8月16日
		メキシコ	家きん	令和6年7月26日
		フランス	家きん	令和6年8月8日
アフリカ豚熱 (ASF)		韓国	豚	令和6年8月12日
				令和6年8月30日

令和6年(2024年)9月1日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

